

## 三十年來中国璽印研究之新認識

上海博物館 孫慰祖

\* [ ] = 訳出に際して補った箇所。

はじめに 中国古璽印学研究の方向

- 一 中国璽印の起源問題の研究方法与実物証拠
- 二 戦国璽印分域〔地域差〕と秦漢魏晉璽印封泥の分期断代〔編年〕
- 三 匈奴語・西夏文字・パスパ（八思巴）文字による印の解読
- 四 隋唐における印制再建の歴史的條件
- 五 漢唐璽印体制の周辺への伝播
- 六 秦漢官印、封泥文字の史料的研究

おわりに

はじめに 中国古璽印学研究の方向

- 1 芸術審美〔芸術的美として見分ける観点〕・芸術規律〔芸術的な法則〕・  
風格史〔風格の歴史〕
- 2 漢字と各民族の古文字、工芸、断代5印章制度5官制と歴史地理研究の史料、  
社会文化

### 一 中国璽印の起源問題の研究方法与実物証拠

後漢の許慎〔『説文解字』の著者〕は「印」の定義について「執政所持信也」〔執政の所持するところの信なり〕と述べている。許氏の時代に印章はすでに信用を表すものとして扱われていた。

しかるに、印は漢代以前より出現している。1980年代には、研究者による代表的な主張は〔中国の〕戦国時代を発端とするというものであった。中国璽印の起源を研究するには次の二つを解決しなければならない。それは 1. 研究の方法論と 2. 実物による証明である。

#### 1. 研究の方法論

印章は、単純な標識としての道具（ある種の印模）からしだいに社会的な設定を記すという働きを持つようになり、一種の独特な印模となった。

- （1）単純な標識（個人または氏族。一時的な性質を持つ〔一過性〕、自己認識）
- （2）特殊な標識（個人または氏族、職銜〔肩書き〕。安定性を持つ〔穏定性〕、社会的認識）

実物による証明

殷代すでに個人または氏族を表す璽印が出現していた。20世紀末、21世紀初めに殷墟で新たな発掘で出土した銅璽は、殷代璽印の発展と応用の程度の実物指標となる。銅璽の文字は人名または家族の標識となる性質を持つもので、璽印の用途と関係のあることを示している。

〔20世紀末～21世紀殷墟出土の〕新三璽の形制と〔20世紀前半出土の〕旧三璽は同型であり、旧三

璽の時期、出土地が信すべきものであることを実証するものである。

印模と璽印の両者の連携においては、社会が一種の特定の文字記号または図形を複製することができ、それによって固定された個人や社会機構（中国においては一般的には官署〔官庁〕）における身分およびその信用を表すことを必要とし、そのものがまた検証に供される時、印模はこの役割の形態的基礎を担うもので、これに伴って性質に転換が生じる。璽印の機能は社会での「設用」〔設定と使用〕に従って拡大する。私印、官職印、官署印、専用印等は、みな「設用」の結果である。中国璽印の起源の道はおよそこのようなものである。

## 二 戦国璽印分域〔地域差〕と秦漢魏晋璽印封泥の分期断代〔編年〕

### 1. 戦国璽印の分域

戦国時代の文字の分域〔地域性〕に関する研究の成果により、古璽の分域〔地域性〕もこれに伴って実現し、各国の官制・地理・姓氏の研究に確かな史料を提供した。

### 2. 秦印鑑別基準の確立

秦と前漢初期の印章をどう線引きするかについては、長期にわたり共通の認識がなかった。1990年代以降、秦の南宮等の遺跡から大量の封泥が発見され、秦印の鑑別にも更なる直接的な文字と印式の標準が提供されることとなった。簡牘の新資料といくつかの官印の考証もまた秦印の標準品を確定する根拠となっている。

文字の書体： 秦系小篆の字体は、筆画にかなりはっきりとした丸みがあり、文字の構造がきつく固定されている。

印面の形式： “田”字と“日”字の界格

鈕式： 鼻鈕、魚鈕、蛇鈕。銀印亀鈕（君印）

### 3. 漢印と魏晋印の剥離〔識別〕

漢魏晋代の印章の断代〔編年〕は、宋代以来、文献によって孤立したなかで考証が進められ、鑑別の標準と科学的方法是形成されていなかった。1980年代、「漢印」は依然として漢魏晋さらには南北朝の印章まで含む「大籀筐」〔大きなザル〕であった。1987年、羅福頤主編『秦漢南北朝官印徵存』の出版により、この八百年の「秦漢印系」官印に断代・分国が提出され、これは骨組みの構築という意義を持つもので、その後さらに調整や細分化が進み、基礎を提示するものとなった。断代基準の序列と具体的な類型の明確化には、更に掘り下げた研究が待たなければならない。

考古学的発掘による実物や文献的根拠を結びつけて、標準品を求め、類型学的方法を取り、様々な時代の文字・工芸・印鈕形態の特徴を取り示すことで、断代基準の序列を設立する。

- (1) 発掘品から伝世品を推定する
- (2) 文字の風格と印鈕形制についての類型的推定
- (3) 秦漢封泥の分期と断代

## 三 匈奴語・西夏文字・パспа（八思巴）文字による印の解読

## 1. 匈奴官印

漢語〔中国語〕による匈奴の官印： 匈奴語を漢語〔中国語〕で音訳した官名： 匈奴語による官印の語句の成分とそこに含まれる意味

## 2. 西夏官印・パспа文字の官印・私印の訳読・解釈と研究

### 3. 元朝のパспа文字の官印と私印の識別

パспа文字の私印の体系。パспа文字私印の体系と元代社会における使用状況。すでに発見されたパспа文字のみの私印とパспа文字と漢字相互による印記資料は500件を越えている。私印は純粋な字と対訳・中間用途の文字形式、および漢族社会の印章形式と印文に用いられる語彙や美的な趣味を受け入れたものとして、社会に溶け込んだ印信の体系を形成している。

## 四 隋唐における印制再建の歴史的條件

魏晋時代には紙の使用が次第に簡牘に取って代わる。簡牘とともに発生した封泥に印を捺印することは基本的には終結を迎える。文献と実物資料から、南北朝後期の社会ではすでに印泥を使用して紙に鈐印〔捺印〕していたことが証明されている。

印文形態の転換は一種の技術的な適応である。印形が大型化するのには北朝の印制と尺度が徐々に変化した結果である。

## 五 漢唐璽印体制の周辺への伝播

### 1. 二つの異なる段階

A. 実物による形態 漢晋時代—授官授印〔官職を授けて印を授ける〕。象徴的な意義を主とする。

B. 制度的な形態 隋唐時代—体制の移植。現地社会の生活に溶け込む。

印章は社会を設用〔設定して使用〕する一種の器物である。「羈縻」を「聖王制御蛮夷之常道」とする思想を貫徹する過程において、それは一種の身分や地位を明らかにし、認識し権力象徴の役割を果たす。郡県を開拓し、周辺民族を安撫する〔落ち着かせる〕のに有効であり、官号の賜封—授印の方式によって相互の関係を確定することは、一種の政治的な処置となっている。

### 授給の対象

A. 独立性の強い辺境部族または割據政権。一例に漢初の南越国がある。

B. 辺郡を開拓し、郡県を設置する過程において、帰順した部族の首領に授給する。部族の首領はその属民に対しては依然として統治権を維持する。

C. 漢に内属する遠方の民族部落、辺境の要塞を協力して防御するもの、または漢による戦争の援助するもの。

D. 貢献に来るもの、中原朝廷を宗主の地位として奉じる部族や方国。

### 2. 周辺民族へ授けられる官印のランク構成 — “四夷”官印体系

官号、印の材質で尊卑を明示することで、部族の勢力、領地の大小および漢王朝への役割を具体的に表現する。

### 3. 遠方の諸族（国）の璽印形態の発展

### 4. 隋唐印制の東伝と東アジアの印系

体制性を導入していく現れ。

## 六 秦漢官印、封泥文字の史料的研究

璽印文字は、およそ二千年以上にわたる中国社会の朝代更替〔王朝交代〕、典制沿革、境域の変遷、民族の交流と融合交往、文字の進展変化等の情報を結びつけるものである。古代文献の記述の詳細の程度は相対的なものである。璽印・封泥の文字は文献史料の不足を実証・訂正・補充することができる。この数十年に新たに発見された璽印・封泥は明清時代から伝わる総数を超えるもので、新たな史料の鎖を形作るものであり、ここから一連の史学研究における新たな結論がもたらされるのである。

### 1. 官印封泥文字における秦漢の官制と行政地理の史料

官印封泥、秦簡に現れた秦郡： 秦封泥に見える中央職官の印文

### 2. 考古資料としての印章： 印学の介入の必要性

—馬王堆三号墓主の確認を例として

## おわりに

この三十年来、分散した資料が集成を経て、研究の条件が改められた。考古学との結びつきは、研究の方法と視野を改めた。新発見の璽印は、その数量は宋から清代の総数を超過している。封泥にはさらに多くの所で「封泥群」という現象が保存されている。これらとそれ以前に出土した璽印は、情報の再構成を生じさせ、中国印章研究の多くの面でこれまでの結論を改めさせるものであり、歴史上に存在する多くの認識の空白を補うものであって、新たな研究方法を形成した。璽印研究は広がりをもつ専門的な学科となりつつあるのである。